

中心市街地拠点施設整備基本計画策定委員会
第1回図書館専門部会 会議録

■日時：平成28年12月7日（水）午後6：30～午後8：30

■場所：四日市市役所 9階 教育委員会室

■出席者：

伊藤美香委員、岡田博子委員、中井孝幸委員、福永智子委員、葛西文雄委員

■議事：

- 1 中心市街地拠点施設整備基本計画における新図書館について
- 2 その他

■内容

- 1 中心市街地拠点施設整備基本計画における新図書館について
資料に基づき事務局が説明。

<意見交換>

葛西委員

- ・先ほど説明があった資料のうち、現図書館の主な課題や問題についてはこれまで出てきた意見をまとめたものであり、新図書館に関する検討については第2回策定委員会の資料を再掲したものである。今回は専門部会の1回目であり、フリートークでご意見をいただければと思う。

B委員

- ・敷地の場所や広さが限られている中ではあるが、現図書館と比べてできるだけ広いスペースを確保していただきたい。

A委員

- ・策定委員会の資料の中にはイメージ図があったと思うが、新しい施設について考えると児童室の位置や規模、エスカレーターでアクセスできるかなどが気になる。

事務局

- ・敷地の場所と面積については、建築指導課とも相談しながら設定してきた。児童室については新たな図書館の主な方針の一つに「子どもの読書活動の推進」を掲げており、児童室についてはある程度規模を確保する必要があると考えている。具体的に面積をどのくらい確保するかは今後検討していく。

葛西委員

- ・現図書館での児童室の広さや蔵書数はどのくらいか。

事務局

- ・児童室の広さは284㎡ある。子どもの背の高さでも本を手にとることができる書架とし、通路を広くし、照明をLEDに替えるなどの改修を平成25年度に行い、利用者の方からは評判がよい。

事務局

- ・児童室は300㎡弱ということなので、新しい施設では1フロア1,800㎡ほどと想定しているため十分確保できると思う。

事務局

- ・児童書については 77,688 冊あり、このうち一定数が開架にある。一般成人室の利用者からは、子どもの声についてやかましい、一般のカウンターまで子どもが走り回るので何とかしてほしいなどの苦情があり、音のゾーニングの必要性を感じており、子どもだけで時間を過ごせる所、親と過ごせる所など工夫が必要だと感じている。

葛西委員

- ・A 委員は、児童室についてどのようなイメージになればよいと思われているのか。

A 委員

- ・親と子どもと一緒に来る人が多く、本を探しながら子どもも見える位置にいたいため、児童室と一般成人室が同じフロアにあった方がよい。

B 委員

- ・音のゾーニングは大事である一方、子どもの姿を見るのが幸せというお年寄りもいて、みんなで子どもを育てるという考えから、児童室と一般成人室を完全に別のフロアにするのはどうかと思う。

葛西委員

- ・難しい課題だが、期待を込めてのご意見だと思う。

D 委員

- ・岐阜市の図書館の場合は広いので、児童のスペースや学生のスペースを同じフロアの端の方に設けているので、お年寄りの方でも子ども達の声はほとんど聞こえなくて、かつ気配は感じられると思う。しかし、この場合はビルなので、音のゾーニングを考えると児童室と一般成人室とは別のフロアにする必要があると思う。新しい施設でワンフロアを子ども用ということで確保できればスペース的には十分な広さだと思う。
- ・エレベーターについては、ベビーカーの場合は仕方がないが、子どもだけで乗せるのはあり得ない。一方、エスカレーターであれば数階分上がる場合でもストレスなく上がることができるし、子どもだけ先に乗っていても安心である。
- ・この施設で3階から図書館になるのであれば、1階の一部を児童室としていただければよいと思う。
- ・先日の策定委員会では「規模が限られているので一部の蔵書が他所にあってもよい」という意見があったと思うが、やはり同じ施設内に蔵書を納めるべきだと思う。ゆったりとした閲覧スペースを確保した上で蔵書数を充実させる必要があり、バックヤードを充実させて少し待ってもらえれば借りたい本が出てくるという仕組みにすればよい。
- ・今の図書館の機能を失わず、拡充する方向で整備されることを期待したい。

葛西委員

- ・拡充する方向にすることは基本だと我々も考えており、例えば現状が約 40 万冊の蔵書数を 80 万冊にしていくなど検討していきたい。

事務局

- ・現図書館では、開架面積が約 1,060 ㎡しかない。新しい施設では滞在型図書館を目指しているので、通路をゆったりしたものにし、車いすの方でも通行しやすいものとする。
- ・開架スペースを確保しつつ閉架書庫を効率よく収納するため、自動化書庫を検討している。

A 委員

- ・現図書館では自動車文庫も行っていると思うが、蔵書の種類や貸し出しのルールはどうなっているのか。

事務局

- ・自動車文庫は市内 91 カ所に月に 1 回巡回しており、貸出期間を 1 か月としている。特にお年寄りに利用していただいている。本のニーズは本館とは別なので、蔵書も別と考えている。本館での貸出期間は 15 日である。

A 委員

- ・新しい図書館については、自動車文庫の出入りとか本館との蔵書のやりとりなど考える必要があると思う。

葛西委員

- ・自動車文庫についてはバックヤードとして自動車がつけられるスペースを 1 階に確保する必要が出てくる。1 階をなるべく市民の方々のためのスペースとして確保するのと、一方でバックヤードを確保するのでは制約が出てくる。

事務局

- ・仮に自動車文庫を別の所に設けるとなると、スタッフも本館とは別に配置する必要があるため非効率となる。

葛西委員

- ・先ほどの話で、現図書館での開架スペースが 1,060 m²、ワンフロアの最大面積が 1,840 m²で複数のフロアを占めれば随分ゆったりとした開架スペースを確保できると思う。

C 委員

- ・今日、お話がされていた広さと児童室などについて、いろいろな考えがあるが、私の考え方を話しさせていただく。児童室については、地方都市の図書館の使われ方を考えると親と子どもは一緒に来るので、児童と成人を分けない方がいいと思っている。岡崎市の図書館では、設計段階でワークショップにより「都市軸」という考え方が提案され、児童室と成人室のスペースはガラスのスクリーンで完全に仕切られた。そうでなく、親御さんと一緒に来たとしても兄弟・姉妹だけで児童室に入り、この時に親の目が届かないことにより子ども達が床にだらしなく座って本を見るというケースがある。お母さん達は図書館だけでなく買い物などいろんな用事を済ませるので子ども達と一緒に来ても図書館での滞在時間は短い。工夫の一つとして、新聞を読まれる方は高齢者が多く、地域資料としての意味もあり静かな環境が好まれるのに対し、雑誌を読まれる方は女性と若者ということで、新聞と雑誌は分けて考え子どものゾーンと大人のゾーンのバッファーとして雑誌のスペースをつくってもいいのではないか。ワンフロアごとに児童室、成人室と分ける方法もあるが、児童室も成人室もどちらも 2 階、3 階に分けて配置してその間にバッファージーンを設けるという方法もあると思う。
- ・エスカレーターの話も先ほど出たが、吹き抜けなど親が子が見える空間をつくって上下階をエスカレーターで結ぶという考え方もある。一宮の図書館の場合、シビックテラスという開放的な空間にエスカレーターが設置されていて気にならないと思う。
- ・滋賀県の愛知川図書館は、子ども達だけで来る図書館である。子ども達が本を読むのに飽きたら、外にフィールドアスレチックがあって外で遊び、また図書館に戻ってくる。子ども達だけで来ると親子で来る場合と違って滞在時間が長くなる傾向にあると思う。
- ・親と子どもが一緒に来ることを想定し、小さな子ども、中高生、成人などゾーンごとにしっかり分けるのではなく「ゆるくつなげる」方がいいと思っている。
- ・自動化書庫に前向きなご意見をいただいたが、私もスペース確保のために機械化はあると思う。一方で、図書館の本の配置や分類、あるいは廃棄することについて職員のスキルが身につくのが課題だと思う。これらを行うには職員が本の内容を知っている必要があり、自動化書庫にすると特に廃棄に際しての職員のスキルについて図書館の専門家に指摘されることがよくある。

- ・広さでいうと、閲覧席数についての基準はなく、先に開架の冊数をどのくらいにするかを決め、その残りのスペースに閲覧席をどのくらい設置するかという手順になる。しかし、滞在型図書館を標榜するなら、閲覧席数も想定しておいた方がよいと思っている。そのためには、例えば利用者が多いと思われる土曜日1日に何人来てもらい、何冊貸し出すかを考える必要があると思う。他の調査結果からいうと、利用者のうち本を借りていく人は6割くらい、1人あたり平均5冊くらい借りていく。例えば30万人クラスの都市の図書館で1日2,500~3,000人の利用があり、1日の利用者のピークは午後2時半頃で1日全体の20%くらいになるためその時は図書館に600人いる計算結果となる。そのうちの6割が席に座るのだが、4人がけに4人とも座るケースは少なく半分の2人程度。そのくらいの余裕をみて席数を考えてもよい。
- ・例えば、他所に書庫を設けるのは私も賛成ではなく、一箇所にまとめるべきだと思う。今後、設計段階になった時に要望を設計者に伝えていけばよいと思う。何を優先順位とするのかをこれから決めていくとよい。新しい図書館をつくれれば四日市の図書館の課題が全て解決するわけではなく、この整備を機に分館を含めた四日市の図書館のシステムを見直すいい機会にし、事業方針として考えていただければと思う。
- ・子どもが小さい時には親御さんが子どもに本を読ませたいから来てくれ、小学生の間もまだ来てくれるが、中学生になった瞬間に来てくれなくなる。クラブ、塾があり、学校の図書室も使う時間が少なく、中高生の活字離れをどのように支えていくかが課題だと思う。

B 委員

- ・今のご意見に同感で、他の館も含めて市内の図書館全体で考えるべきだと思う。また、自動車文庫は、他都市ではなくなってきたのに対して、本市では受け継ぎ運営していただいている。図書館に近くてもわざわざ自動車文庫を利用するという市民の方もいて、ぜひ存続していただきたい。私達は図書館の運営に関わらせていただき、図書館が大事だと感じながら利用しているが、一般市民の方も、例えば子どもの教育、シニアになった時の生涯学習など図書館をどのように使いたいかを考えるいい機会でもあると思う。ぜひ教育委員会や市が中心になって、計画を広く市民の方々にも周知し機運を盛り上げる取り組みをしていただきたいと思います。

葛西委員

- ・図書館というハコモノをつくるだけでなく、それを契機に四日市市民が読書に親しんで、その中で人間形成を考えていく、そのいい機会にできればと思う。

B 委員

- ・図書館から遠い地区では、隣の菰野町の図書館を利用している人も多いと聞く。市民センターを分室として使うなどいろんな手立ちはあると思うので、四日市の図書館の本を手にとれる環境を作ってもらえるとよい。

C 委員

- ・愛知県の図書館を例にとると、図書館利用者の4割くらいは複数の図書館を利用している。菰野町の図書館も使うけれども四日市の図書館も使ってもらおうという考えもある。市民に来てもらえるように図書館の魅力を高める必要があると思う。
- ・図書館周辺の地域の人達に図書館を利用しているかアンケートを取ったところ、津市では25%、東京でも30%の人しか利用していないという結果だった。公民館、プール、体育館など他の施設になるとこの比率がもっと低くなる。図書館は市民の利用率が3割と高いが、残りの人達を引きつけるように他の機能部分も考える必要がある。今まで図書館を使っていた人にも、これまで使っていない人にも使ってもらえるようになれば良いと思う。
- ・音のゾーニングという点でいえば、静かにできるスペースを各所につくれば、例え周りが騒がしくなってもそのスペースに逃げることができる。大まかなゾーニングは必要だが、賑やかなゾーンでも一部は静かに閲覧できるスペースを設けるなど、各所にこのようなスペースがあった方がよい。

事務局

- ・今のご意見とは逆に、他の事例からチャットルームなどおしゃべりしてもいい空間を一部設けるという考え方もあると思う。

B 委員

- ・図書館で活動している人達が打ち合わせをしていると、議論が盛り上がり声が大きくなるということもある。その場合、今の図書館では児童のスペースで議論してくれと言われる。今のお話をお聞きし、逆におしゃべりできる空間が一部にあってもいいと思った。

事務局

- ・先ほど、児童や小学生は本に親しむ機会があり、中高生になると本離れするというご意見があったと思うが、今の図書館では、若者の学習スタイルが変わってきており、学習で利用できるスペースの一部ではおしゃべりしていいコーナー、飲食できるスナックコーナーも別に設けている。新しい施設では、近年の若者の学習スタイルについても考慮する必要があると思う。

葛西委員

- ・これまでのご意見にあったような様々な仕掛けを用意し、図書館に来た人が新たな友達や知人を呼び込むようになるとうい。また、図書館だけでなく他の機能の方でも仕掛けを考えていく必要があると思う。

C 委員

- ・学習室の使い方については、一宮と塩尻を比較してみるとよい。一宮の場合は図書館内に学習室があるためそこを利用するが、塩尻の場合は図書館内に学習室がなく、図書館外の共用スペースを利用する。一人で勉強したい学生は図書館内を利用すればいいが、グループで来てしゃべりながら飲食しながら勉強したい学生、あるいはサークルの打ち合わせに来た人達は共用スペースを使えばよいと思う。全てを図書館だけで解決する必要はなく、施設全体の中で上手に配置を考えればよい。学習室をどこに作るかはどこかで判断する必要がある。

葛西委員

- ・学習室の配置については、今後検討していくべき課題だと思う。

A 委員

- ・中高生は忙しいというのはその通りだと思う。滞在型ということに関して、ずっと施設の中にいるということになるのではなく、周辺で遊び場があってそこでも子ども達がいられるようになったらいいと思う。

葛西委員

- ・施設周辺に遊び場があって、一汗かいてまた施設に戻ってくるという趣旨だったと思う。夏になったら涼みに来る。

事務局

- ・今度の施設は複合型で、場所は総合会館と市役所との並びになる。中央通りと三滝通りに面し、東西南北から人が集まってくる場所となり、普段は図書館に来ないような人も訪れる。また、イベントの時には外と一体的に開放することも考える必要がある。四日市の場合は、市民の利用率が3割より低いかもしれないが、他の用事でたまたま訪れた人が図書館にも来てもらえるようになりうると思う。

- ・中高生の利用もポイントの一つで、中高生の動線にあるのがメリットだとも思っている。今の図書館の場所だと中心部の西の端であるのに対し、新しい施設は近鉄とJRの間で中高生の行き来が多い。位置を変えれば今まで使っていた人にとっては使いにくくなる場合がどうしても出てくるだろうが、新しい施設では公共交通も便利な場所で新たな利用者も期待できると思う。

葛西委員

- ・他にこのテーマについて議論が足りていないという点はないか。

D 委員

- ・学習室について、個人的には3種類あればいいと思っていて、1つは図書館の中で静かに勉強できる1人用スペース、2つ目は図書館の外にグループで中高生が学習できるスペース、もう1つはコンビニの前などで飲食できるスペースである。近年の中高生はグループで勉強しており、この施設内だけでなく例えばファミリーレストランなど安く過ごせる所があれば利用すると思う。いろんなところに散らばっている中高生に対し、本は借りてもらわなくてもいいので図書館に来てもらえるよう、学習などのスペースを3種類くらい設けられればと思う。

C 委員

- ・高齢者の方は柔らかいソファを利用し、中高生は硬いイスを利用する傾向にあると思う。居場所としての選択肢はなるべくたくさんあった方がいいと思う。
- ・不足している議論としてICTはどうするのか。例えば電子書籍については、選択肢が広がるのは魅力の一つにはなると思うが、アナログで本を読まない人が電子書籍を読むわけではなく利用者増には必ずしも結びつかないのではないかと思う。一方、必要なこととしては高齢者にパソコンなどを教えることがあると思う。近年、様々な公共サービスがネット上で利用できるようになっているが、高齢者の家庭ではパソコンが少ないと思う。図書館に来ればパソコンを無料で利用できるし、公共サービスや情報などいろんなものが公開されているのにその情報にたどり着けない高齢者も多いと思うので、パソコンの利用をサポートする仕組みがあればよいと思う。ICTに関しては、それを使える人も一緒に積極的にサポートしていただければと思う。

葛西委員

- ・病院や自宅からなど図書館に来られない人でも本を読めるということで、他都市には電子書籍のサービスがある。電子書籍について解説してもらいたい。

事務局

- ・電子書籍については、図書館利用者向けに電子書籍サービス事業者から図書館が買って無料で利用してもらおうというもので、例えば病室からでもネット上で登録していただき、来館せずとも書籍を利用できるというものである。電子書籍の業界では、個人向けの方が多くて30万冊、図書館向けでは1万5千冊提供されている程度である。活字を拡大して表示できるなど障がい者の方が来館せずとも利用できるというメリットはある。電子書籍については10年程前から話題になっていたが、現在全国でも33自治体しか導入していないことをみると課題はあると思う。

葛西委員

- ・10月29日付けの新聞では、出版社大手が資本提携し、2018年までに8万種類を図書館に提供できるようにするということがあった。出版業界にとって紙の本が売れなくなるということで今までは電子書籍の導入に消極的だったが、方向転換をしたということだと思う。

D 委員

- ・電子書籍は社会の様子を見ながらポチポチとやっつけていけばいいと思っており、消極的に考えている。国立国会図書館が電子書籍を全部揃えて日本中の図書館に提供すればいいという意見を聞いたこともある。著作物なので作家達の権利を守るという考えもあるのだろうが、今は1冊あたりの単価が紙の本と比べて非常に高く、電子書籍1冊で紙の本が4冊買える程度だと思う。とはいえ、今後を考えると電子書籍を導入しないわけにはいかないので、青空文庫のように著作権が切れてしまっているものだけについて試しに導入してみたらどうか。多少導入してみるという程度で、四日市が他都市より頑張っただけで充実させる程のものではないと思う。

C 委員

- ・ICタグを導入する考えはあるのか。

事務局

- ・現在は本をバーコード管理しているが、全ての本についてICタグの導入を検討している。ICタグにすれば、本の貸出も自身で簡単にでき、予約棚でも利用できるなど利用者の利便性が高まり、管理する職員側にとっても負担削減につながる。

葛西委員

- ・運営と利用者サービスの両面を考えると、投資できる時に一定の投資をするという考え方からいけば、自動化書庫やICタグについては導入していくという考え方でいいのではないか。その他、ソフト面についてご意見を伺いたい。

B 委員

- ・司書さんは大事だと思う。今の司書さんにはいろいろ助けられているので、新しい施設でも司書さんは充実させてほしいと思う。例えば子どもがこういう本がほしいと言った時に適切な本を見つけることができるのも司書として長年今の図書館にいるからだと思う。

A 委員

- ・現図書館の現場スタッフもいらっしやっているので、ぜひお聞きしたい。

事務局

- ・今嬉しいご発言をいただき、司書としてやりがいがある。一人ひとりが長く使ってくれれば、来ていた子が成長して大人になると、またその子どもを連れてきてくれるので、そのような小さな一つひとつのサイクルが必要だと思う。新しい図書館では、今まで来ていなかった人が来てくれることを求めている。

事務局

- ・図書館に通っていた立場として、子どもが小さい時に家族4人分のカードを使って30冊以上借りたという覚えがある。小学校の時に宿題のために通った時でも、子どもが持ってきたおぼろげなメモをもとに、司書が子どもにいろいろ話かけてくれて読みたい本に何冊もたどり着くことができ、親が聞き出せないところを聞きとってもらえた。今年、図書館では夏休みの最後の8月31日になり、子どもが泣きながら図書館に来て読書感想文を書く本を探していた時にも、司書達が本を読むのが苦手な子ども達の目線に立って対応していた。

事務局

- ・司書の役割には、人と本をつなぐ、人と情報をつなぐことがある。また、図書館として収集すべき地域資料などの書籍を収集保存することが図書館にとって重要だ。そういった蔵書構築は長年かけて取り組む必要があり、そのことに取り組むのが司書である。

葛西委員

- ・図書館にとって司書は重要である。

D 委員

- ・予算のこともあるが、直営の職員がいるのが重要で、全ての職員を行政の方がするとまではいかないまでも、館長まで指定管理者が行うのはよくないと思う。図書館は社会教育事業であり、長い時間をかけてこういう蔵書を集めようという方針がまずあると思う。さらにレファレンスサービスについては、研修などで技量を身に付けていくことをされており、いろんな図書館研修でも司書を募集する時に、司書歴3年以上、現役の司書など条件を付けている場合が多い。また自治体が運営する図書館の研修の機会は直営のスタッフが多いと思う。
- ・四日市の場合もそうだが、自治体の図書館には広がりがあり、市内の分館や県とつながり、県の図書館は国の図書館ともつながっている。図書館の間の連携協力、最近だと大学図書館との連携協力も含めて重要になってきている。さらには、子どもの読書推進となると幼稚園、保育園、学校との連携も必要で、これらも市の運営でないと連携がとりにくいと思う。
- ・地域資料を持つのが地方自治体の図書館の役割で、こういった資料の収集は国立図書館ではやってくれない。その担い手はやはり長年図書館に関わっている直営の方だと思う。
- ・全て指定管理にしてしまうとスタッフの研修、施設間の連携がとりにくい、四日市の大事な財産が残っていかないなど、これまでの蓄積が引き継がれずもったいないと思う。

C 委員

- ・日本で一番レファレンスが優秀なのは浦安の図書館だと思う。なぜトップ水準になったかという利用者で鍛えられ、ニーズに応じていったからである。子どもの宿題、ビジネス利用でも図書館に行って自分が思っていた以上のものが返ってくると次も使うと思う。司書には利用者とのコミュニケーション、人と接するために時間を使ってほしく、その時間をつくるためにICTの設備を導入するのであれば賛同できる。
- ・利用者の立場でいうと、カウンターに行くよりも本を探しているあたりでちょうど書棚を整理しているスタッフがいればその方が話しやすい。
- ・ICTの他にも展示、講座があると思うが、四日市には博物館、ホールはあるが公文書館、アーカイブがない。公民館もつけてMLAK連携というが、いろんなところの行事をお互いに見られるようにする。国の場合はMLAといって国立図書館で博物館、美術館にあるものがアーカイブとして見られる。四日市の場合、博物館、ホールなどで行事がある時に図書館でも連携して行うとよい。図書館のいいところは、1日3,000~4,000人は来ると思う。岡崎の図書館でも1日4,000人來ている。ただし、回転率は早いので、利用者をつなぎ止める展示や講座などを行うとよい。待っているだけではダメで、積極的につなぎとめられるような事業を行う必要があると思う。図書館あるいはそのほかも含めていろんなサークル活動があると思う。

B 委員

- ・3,000人~4,000人も来るのであれば、今の市営駐車場やくすの木パーキングを合わせても駐車台数900台では少ないと思う。具体的にどの曜日のどの時間帯がピークになるのか、休日は市役所がやっていないので平日になるかと思うが、現図書館で具体的に調査していただいた方がよい。新しい施設では図書館だけでなく本庁の利用者もいるので、そのことを含めてシミュレーションしていただきたい。さらに、自動車文庫はぜひ新しい施設に。車いすの方などバリアフリーにも配慮して地階に駐車場を検討する必要がある。

葛西委員

- ・駐車場の台数については、第3回策定委員会で資料として出していく予定で、実測値を調査することが必要と思う。

事務局

- ・現状どのような使われ方をしているかがわからないので実測したいと思う。心配しているのは休日より平日の昼間であり、本庁利用者や総合会館の検診、確定申告での利用者などが想定され、公用車を減らすべきという議論や、おもいやり駐車場を1階に何台分か確保しなければならない、自動車文庫のスペースをここに確保できるかどうかという議論もしている。駐車場については第3回の策定委員会を出していく予定である。

A 委員

- ・この少人数だけでなく市民のいろんな方の意見を聞く機会はあるのか。

事務局

- ・既に委員のご協力により何人かの方には意見交換をさせていただいたが、ある程度の素案をつくった時に情報発信して意見を聞きたい。来年9月の段階では、議会との約束で素案を示して進めているのかを諮る必要がある。

葛西委員

- ・我々の間で検討しながらその都度議事録を発信し、計画案ができた時には多くの方に見ていただき、市民みんなで考えていくものにした。

B 委員

- ・先日の策定委員会と比べて我々は意見を多く言わせていただいてありがたいが、少人数という面もある。

事務局

- ・策定委員会では意見が多岐にわたるため、新しい施設の中でも核となる図書館についてはより議論を深めるため、本日のご参加いただいたみなさんにメンバーを絞り込むことをさせていただいた。

A 委員

- ・四日市の本と一緒に歩んで来られた方々もいると思うので、そういう人たちの意見も聞いていただきたい。

事務局

- ・今回は日頃図書館に関わっていただいている方々を中心に専門部会としているので、少人数で具体案を検討している。今後、ご意見をいただいた方々にお聞きする機会をつくっていきたい。

D 委員

- ・図書館の評価の指標については、来館者数、貸出数の増加に集約されがちだが、図書館の業務はもっと多岐にわたるので、そのことも今後検討していただきたい。

C 委員

- ・今回を機会として四日市の中での読書環境をサポートする形としていろんな場面があると思うので、学校連携を含めて今後情報をいただければと思う。

葛西委員

- ・今日は2時間にわたり密な意見交換をしていただいた。次回、よろしくお願ひしたい。

2 その他

次回の日程は、平成29年1月19日とする。